

# 小学3・4年生におすすめの本

## 姫路市立城内図書館

ひとりで読んでも、読んでもらっても おもしろい本を しょうかい します。図書館に かりに来てね！  
(どれも3・4年生におすすめのものですが、本のあつさや字の大きさから、  
☆でランクづけをしています。 ☆やさしい ☆☆ふつう ☆☆☆字が多い)

### 海のおばけオーリー

マリー・ホール・エッツ文・絵 岩波書店 EーE ☆

アザラシのオーリーは、お母さんが魚をとりに行っている間につかまって、水族館につれてこられました。オーリーはお母さんがこいしくてたまりません。しいく係がオーリーをにがしてくれますが、外のみずうみに出たオーリーを、人間たちはおばけだと思いこんで大さわぎになります。

### 大どろぼうホッツェンプロッツ

プロイスラー作 偕成社 GYーP ☆☆

カスパールのおばあさんのコーヒーひきが、大どろぼうホッツェンプロッツにぬすまれました。カスパールと友だちのゼッペルは、大どろぼうをつかまえるため、ねじろをさがし出すさくせんをねりましたが、ぎやくにつかまってしまいます。ふたりは無事、コーヒーひきを取りもどせるでしょうか。

### 沖釣り漁師のバート・ダウじいさん

ロバート・マックロスキー作 童話館出版 Eーマ ☆

バート・ダウじいさんは、「しおまかせ」という名前のおんぼろの船を持っています。ある日、このじまんの船に乗って海に出たところ、くじらのしっぽにつりばりをひっかけてしまいました。やっとはりがはずれたところへ風がふいてきたので、じいさんは船に乗ったまま、くじらのいぶくろの中にひなんさせてもらいます。

### おもしろ荘の子どもたち

リンドグレーン作 岩波書店 GYーリ ☆☆☆

マディケン<sup>マディケン</sup>は7才。川のそばの「おもしろ荘」に、妹のリサベツ、お父さん、お母さんたちとくらしています。2人の姉妹は、山のぼりのつもりでたきぎ小屋の屋根にのぼったり、こおった川をどンドンすべって農場まで行ってみたりします。毎日が楽しいぼうけんといっぱいです。

### がんばれヘンリーくん

クリアー作 学研 GYーク ☆☆

ヘンリーくんは、町でとてもやせた犬を拾い、アバラーと名前をつけました。見つからないよう紙ぶくろに入れてバスにりましたが、とちゅうでアバラーがあばれだして大さわぎになります。家につれて帰ってからも、ヘンリーくんとアバラーのまわりにはゆかいなじけんが次つぎと起こります。

### くつなおしの店

アリスン・アトリー作 福音館書店 GYーア ☆☆

くつ屋のニコラスじいさんは、あしのわるいポーリー・アンのために、やわらかい赤いくつを作りました。そののこりの皮で小さいくつを作り、「ようせいにびったり」と書いたカードをつけて店のまどにぶらさげました。夜になると、くつは明るくかがやきはじめました。そして、小さいようせいの男があらわれます。

## くまのパディントン

マイケル・ボンド作 福音館書店 GYーボ ☆☆☆

ブラウンさんは駅のプラットフォームで、茶色のクマにであいました。クマはへんてこなぼうしをかぶり、スーツケースにこしかけ、首に「どうぞ、このくまのめんどうをみてやってください。おたのみします。」というふだをかけていました。駅名からパディントンと名づけられたクマは、ブラウン家の一員となり、いろいろとゆかいなそどうをひきおこします。

## くらやみ城の冒険

マージェリー・シャープ作 岩波書店 GYーシ ☆☆☆

ねずみたちがけっせいしている「囚人友の会」で、くらやみ城にとらわれている詩人を助け出すことが決まりました。優雅な白ねずみミス・ピアンカとまじめなバーナード、船乗りねずみのニルスは、その仕事をひきうけ、冒険にのりだします。

## 黒ネコジェニーのおはなし 1・2

エスター・アベリル作 福音館書店 GYーア ☆☆☆

小さな黒ネコのジェニーは、キャプテン・ティンカーという年とった船長さんといっしょにくらしています。ジェニーは、はにかみやで、近所のネコたちが集まるキャット・クラブの楽しそうなようすをいつもうらやましく見ていました。ある日、ジェニーはなかまに入れてもらうためにスケートをやってみようと思いつきました。2さつの本に、ジェニーのおはなしが6つ入っています。

## こぎつねコンとこだぬきポン

松野正子文 二俣英五郎絵 童心社 Eーフ ☆

こぎつねコンとこだぬきポンは友だちになりたいと思っていましたが、とうさんとかあさんがゆるしてくれませんが。ある日、コンとポンはないしょで会い、ばけっこをして遊びました。コンはポンに、ポンはコンに。ところがそのとき、かあさんのよぶ声がして、あわてたふたりは、ばけたまま相手の家に行くことにします。

## しずく的首飾り

ジョン・エイキン作 岩波書店 GYーエ ☆☆☆

女の子ローラは、名づけ親の北風から、しずく的首かざりをもらいました。しずく的首かざりをかけていると、どしゃぶりの雨の中でもぬれないし、雨をやませることもできます。ところがローラがもうすぐ10才というある日、大切な首かざりが盗まれてしまい、ローラはさがしに出かけます。ほかにも空をとぶパイの話など、ふしぎなおはなしが8つ入っています。

## せいめいのれきし

バージニア・リー・バートン文・絵 岩波書店 Eーバ ☆☆☆

地球上にせいめいがうまれたときから、今までのおはなしが、5まくのおしばいになっています。それぞれの場面で、天文学者、地しつ学者、古生物学者、れきし学者、おばあさん、作者がじゅんばんにナレーターをつとめます。主役の動物や植物のなかには、ほろんでしまったきょうりゅうや、今の生き物のせんぞもいます。読み物としても、ちしきの絵本としても楽しめます。

## 世界のむかしばなし

瀬田貞二訳 のら書店 90ーセ ☆☆☆

世界のいろいろな国の昔話が14話入っています。やどなしが、1本のくぎから、すてきなごちそうとベッドを手に入れる話「くぎスープ」、たびに出かけた4本のゆびの話「5本のゆびさん」など。

## 空とぶ船と世界一のばか

アーサー・ランサム文 ユリー・シュルヴィッツ絵 岩波書店 Eーシ ☆

むかし、ある村に世界一ばかだといわれるむすこがいました。あるとき王様が、空を自由にとぶ船をもってきたものを、王女とけっこんさせるとおふれを出しました。ばかむすこは旅に出て、空とぶ船を手に入れ、「きき耳」「大きい」など7人の男となかまになりました。ところが、おしろにたどりついたばかむすこに、王様はつぎつぎとむずかしい仕事をいっつけます。

## 小さい魔女

プロイスラー作 学研 GYーブ ☆☆

むかしむかし、ひとりの小さい<sup>まじよ</sup>魔女がいました。年はたったの127才。魔女のなかまでは、まだひよっこです。小さい魔女は、年に一度のワルプルギスの夜、こっそり大きい魔女たちのおどりにしのびこみ、つかまってしまいました。そして、魔女のおかしらに、来年のワルプルギスの夜までに、いい魔女になるとやくそくします。

## 小さなスプーンおばさん

アルフ・プリヨイセン作 学研 GYーブ ☆☆

ある朝、目がさめると、ティースプーンくらいに小さくなってしまったスプーンおばさん。でも、そんなことぐらいでおどろくおばさんではありません。頭を使って、てきぱきと家の仕事をかたづけてゆきます。小さくなったり、大きくなったり、次々とおかしな出来事にまきこまれる、スプーンおばさんのゆかいなお話。

## チムとゆうかんなせんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ作 福音館書店 Eーア ☆

チムぼうやは、ふなのりになりたくてたまりませんでした。ある日、きせんにのりこんでかくれていたチムは、そのままほんとうのこうかいにでことになりました。チムはふねのしごとをてつだって、せんいんたちともなよくなります。ところが、あらしのよる、ふねがいわにぶつかってしまい、チムとせんちょうさんがふねにのこされます。

## 年とったばあやのおはなしかご

ファージョン作 岩波書店 GYーフ ☆☆

ドリスたち4人きょうだいのばあやは、いつもねる前にくつ下のあなをかがりながら、お話をしてくれます。はいたとたんくつ下にあながあいてしまう王女の話、かんしゃくもちのインドの王子の話、チョウのように小さな中国の王女の話など。話のたねはつきません。ばあやは、何百年もばあやをしていて、昔のことを全部おぼえているのです。

## ドリトル先生アフリカゆき

ヒュー・ロフティング作 岩波書店 GYーロ ☆☆☆

ドリトル先生は、世界でただ一人の動物と話ができる<sup>じゅうい</sup>獣医さんです。もとは人間の医者でしたが、動物の患者が<sup>かんじや</sup>次つぎとやってくるので、人間の医者の方はやめてしまいました。あるとき、先生のひょうばんをきき、えき病に苦しむアフリカのサルたちから助けてほしいというたよりがとどきました。先生はサルたちの病気をなおすため、家族の動物たちとともにアフリカに旅立ちます。

## 長くつ下のピッピ

リンドグレーン作 岩波書店 GYーリ ☆☆

9才のピッピは、世界一強い女の子。ごたごた<sup>そろう</sup>荘で、サルのニルソン<sup>し</sup>氏と馬といっしょに、ひとりだけで住んでいます。となりの家のトミーとアンニカは、自由でかたやぶりのピッピがうらやましくてたまりません。ピッピは、サーカスで大男とのレスリングに勝ったり、火事の家から子どもを助け出したり、大かつやくします。

## にぐるまひいて

ドナルド・ホール文 バーバラ・クーニー絵 ほるぷ出版 Eーク ☆

10月になると、とうさんはにぐるまにうしをつないで、いちねんかんに家族みんながつくり、そだてたものを、10日ばかりでポーツマスのいちばへうりにいきます。しなものがぜんぶ売れると、家族みんなのために買いものをして帰ります。そしてまた来年の10月がくるまで、ひ毛をつむいだり、やさいをつくったりして、家族ではたらきます。

## 日本のむかしばなし

瀬田貞二文 のら書店 Yーセ ☆☆

たくさんある日本の昔話の中から、「花さかじい」、「ねずみのすもう」、「まのいいりょうし」、「さるとひきのもちとり」、「三まいのおふだ」などよく知られた13のお話が入っています。

## のはらうた 1

工藤直子作 童話屋 911ーク ☆☆

かなしいとおもくひきずる／うれしいとかるはためく／しっぽはぼくのこころだ／（「こころ」こいぬけんきち）。野原にすむいきものたち、へびいちのすけ、かまきりりゅうじたちの詩集です。『のはらうた2・3・4』、『えほん・のはらうた1・2』もあります。声に出して、読んでみてください。

## ハナさんのおきやくさま

角野栄子作 福音館書店 Yーカ ☆

ハナさんは、まちはずれの森の入り口にある赤い屋根の小さな家にひっこしました。この家には、おばけの子やゆきだるま、夜のまっくろくろなど、ふしぎなおきやくさまがやってきます。そのたびに、ハナさんはお茶やケーキで楽しくおきやくさまをもてなします。

## 火のくつと風のサンダル

ウルズラ・ウェルフェル作 童話館出版 GYーヴ ☆☆

くつ屋の息子チムは、7才のたんじょう日にお父さんからすてきな計画をプレゼントしてもらいます。夏休みになったら、チムとお父さんの2人で、旅をしようというのです。旅のあいだ、チムは「火のくつ」、お父さんは「風のサンダル」とよび合うことにしました。夏休み、チムは見知らぬ町で星空の下にねむったり、丸太の橋から川に落ちたり、さまざまなおぼろげな話をします。

## ペニーさん

マリイ・ホール・エッツ文・絵 徳間書店 Eーエ ☆

ペニーさんは今にもこわれそうな小屋に、ウマ、メウシ、ヤギ、ブタ、子ヒツジ、メンドリ、オンドリとすんでいます。動物たちの食べものを買うと、おきゅうりようはぜんぶなくなってしまうのですが、「どのひとりも手ばなすことはできん」といって、めんどうをみています。ところがあるとき、動物たちがとなりのうちの畑のやさいを食べてしまいます。

## 町かどのジム

ファージョン作 童話館出版 GYーフ ☆☆

ジムは、80才になるおじいさん。少年デリーは、町かどのみかん箱にすわっているジムのとなりに腰かけて、ジムが船乗りだったころの話を聞くのが大好きです。デリーは、およめさんがしをするペンギンの話や、木星にぬすまれそうになった月の話など、ゆかいでふしぎなお話を聞かせてもらおうでした。

## みどりおばさん、ちやいろおばさん、むらさきおばさん

エルサ・ベスコフ文・絵 福音館書店 Eーベ ☆

小さな家に、みどりおばさんとちやいろおばさんとむらさきおばさんが住んでいました。あるひ、かい犬のブリックが、さんぽのとちゆうでいなく

なっていました。おばさんたちはわけてさがしますが、みつかりません。ちやいろおばさんは、道であった男の子と女の子に、ブリックをみかけたら知らせてくれるようにたのみます。

## やまとゆきはら 白瀬南極探検隊

関屋敏隆作 福音館書店 Eーセ ☆☆

100年前の、白瀬南極探検隊しらせなんきょくたんけんたいの絵本です。白瀬隊長は、隊員とアイヌの人とともに、カラフト犬をつれ、帆船はんせんで南極点をめざしました。そのころ、イギリスのスコット隊やノルウェーのアムンゼン隊も南極点をめざしていました。探検隊は、きびしいしぜんにはばまれ、引きかえさなければなりませんでしたが、たどりついたところを大和雪原やまとゆきはらと名づけました。

## 山のトムさん

石井桃子作 福音館書店 Yーイ ☆☆☆

戦後せんごまもなく、北国の山間に開墾かいこんの人たちの家ができ、トシちゃんとお母さん、おばさんとアキラさんがひっこしてきました。山の家にはネズミが多く、こまった家族はねこをかうことにします。手のひらにのるような子ねこがやってきてトムと名づけられました。ところが、トムはちっともネズミをとりません。4人と1ぴきの山のくらしがいきいきとえがかれています。

## ゆかいなホームーくん

ロバート・マックロスキー作 岩波書店 GYーマ ☆☆

ホームーはアメリカのいなか町に住む、きかいいじりの好きな少年です。ある日、おじさんのしょくどうでひとりで店番をしていると、ドーナツせいぞろきがこわれて止まらなくなってしまいました。次つぎにできるドーナツの山に、ホームーはめいあんを考えつきます。他にも、ペットのスカクのおかげでごうとうをつかまえる話など、楽しいお話がいっぱいです。

## 雪の写真家ベントレー

J・B・マーティン文 M・アゼアリアン絵 BL出版 Eーア ☆☆

雪の結晶けっしょうの写真をとりつづけた雪の研究家、ウィリー・ベントレーをえがいた絵本です。まずしい農村に生まれたかれは、お母さんからもらった古いけんびきょうで雪をかんさつしていました。結晶の形をスケッチしてみますが、いつもできあがるまえに雪がとけてしまいます。でも写真なら、その美しい形をのこすことができることに気がつきました。

## よあけ

ユリー・シュルヴィッツ文・絵 福音館書店 Eーシ ☆

みずうみの木のしたに、おじさんとまごがねています。月がでて、あたりにはうごくものもありません。ときおりそよかぜがふくと、みずうみにさざなみがたちます。やがてもやがたちこめ、鳥がなき、ふたりはおきて、ボートをみずうみにこぎだします。夜があげていくさまを、しっとりとした色づかいでえがいた絵本です。

## ライオンと魔女

C. S. ルイス作 岩波書店 GYール ☆☆☆

4人のきょうだいが、いしょうだんすの中を通して雪の降りつもるふしぎな世界に入りこみました。そこはナルニア国という、ものいうけものやでんせつのいきものがすむべつの世界で、白い魔女まじよによってえいえんの冬にされていました。4人はライオンのアスランとともに、魔女とたたかいます。

## ロボ カランポーのオオカミ王（シートン動物記3）

アーネスト・T・シートン作 福音館書店 48—シ ☆☆☆

ニューメキシコ北部の高原カランポーに、ハイロオオカミのリーダー、ロボがひきいるむれがありました。多くのりょうしがロボをとらえようと  
いどみますが、頭のいいロボは、どくのえさやわなの正体を見やぶり、あらゆる<sup>わざ</sup>技と<sup>ちえ</sup>知恵で人間のこうげきをかわしていきます。